



三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



人類に奉仕する
ロータリー

会長挨拶

三条南ロータリークラブ 会長

丸山 征夫

自分に奉仕、 周りに奉仕。

ロータリー標語で『超我の奉仕』というのがあります。「我」は英語ではSELFです。セルフサービスは自分で自分の為にする行為です。SELFISHという言葉は自己的とか我儘とかの意味です。DIYはそれを自分でやる、つまり日曜大工みたいな意味です。

「私」や「僕」に相当する中国語は男女共通で「我」（発音：ウォ）となる。日本語の中にも中国語ほど頻繁に使われないものの、「自我」や「我が家」「我に返る」と自分自身を指す言葉として使われる。しかし、この「我」という漢字は、実は象形文字で、一文字の中に攻撃性の強い武器が2つも入っていることをご存知だろうか。

漢字「我」の左側の正体は鋭いのこぎりの歯を抽象化したもので、右側は剣に長い柄を取り付けた武器「戈（ほこ）」のことである。「我」という武器を持つことで戦いになり、自「我」へのこだわりで争いになる。

まったく違う意味に転化したように見える「我」は、実は先人がわれわれに「我」は争いのもとであることをわからせるために創ったのかも知れない。

その争いのもととなる「我」は捨てるべきだと諭す言葉、「先他後我」や「無私無我」のような言葉も中国語に多く、物語や伝説の中でも度々登場する。伝説の鹿王の話はその一つである。

遙か昔、ある美しい溪谷に可愛い小鹿たちが群れをなして住んでいた。そこに並外れた品格を持ちおまけに人間と話ができる鹿王がいた。小鹿たちは鹿王のもとで幸せいっぱい暮らししていた。しかしある時、狩り好きの国王がこの鹿のことを聞きつけ、しばしば狩りにやってくるようになった。

平和を失った溪谷に鹿王は心を痛み、命の危険を冒して国王に会いに行くことにした。餌食になる危険を冒してまで仲間のために町にやってきた鹿王に国王は深く心を打たれた。「もし月に一度、1匹の鹿が崖から飛び降りて、人々の食料として奉げることができるなら、私は二度と狩りはしない」と鹿王に約束をした。

出席率

会員51名中32名

先々週の出席率

89.13% (9/5)

ゲスト

RI第2560地区米山記念奨学委員長 田中雅史様

先週のメイクアップ

9/27 三条北RCへ 長谷美津明君 星野健司君 石山昌宏君 松崎孝史君
野島廣一郎君 吉沢栄一君

9/29 燕RCへ 阿部隆樹君 船久保孝志君 長谷美津明君 加藤峰孝君

10/1 社会奉仕委員会セミナー（長岡）へ 谷晴 夫君

星野健司君 西巻克郎君 野島廣一郎君

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

I 真実かどうか

II みんなに公平か

III 好意と友情を深めるか

IV みんなのためになるか どうか



—2016-17年度国際ロータリーのテーマ—

国際ロータリー会長	ジョンF. ジャーム [アメリカ]
第2560地区ガバナー	田中政春 [長岡西]
第4分区ガバナー補佐	森山一理 [加茂]
会長	丸山征夫
幹事	谷晴夫
S A A	木村讓

事務局

〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三条信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

その後、毎月順番に鹿が崖から飛び降りるようになった。一匹の犠牲で仲間が救われたことで、溪谷に平和が戻った。そんなある日、崖のそばから泣き声が聞こえてきた。鹿王が声をたどっていくと、飛び降りる番となった鹿だった。「仲間のためなら、悔いはありませんが、このお腹にいる子を考えると辛いです」と妊娠したメス鹿が涙ながらに話した。「大丈夫、私に任せなさい」と鹿王がメス鹿を帰らせた後、なんと自らが意を決し、崖から飛び降りたのだ。

まもなく、国王はこの知らせを聞き、鹿王の「無私無我」の偉大さに自分の行為を恥じ、「二度と鹿を殺してはならない」と国民に命じた。

鹿王は自らの命と引き換えに仲間の命を救った。その行為はさらに国王に自分たち人間の欲や利益への執着に気付かせ、生け贄をやめさせたのだ。

一方、それとは反対に、現代社会で人々は「我」のための利益や名誉を守るため、人間同士のいさかいや国同士の紛争が絶えまなく続いている。

「我」という漢字はその発音の強さからも、昔はあまり使われていなかったという。その代わり、日本語にまだ面影が残る「僕」「吾」「余」が使われていた。発音の柔らかいこれらの呼び方は謙虚で穏やかに聞こえ、昔の中国人の奥ゆかしさが感じ取れる。現在頻繁に使われるようになった「我」には自己中心的なニュアンスが伝わり、漢字からその時々の国民性さえも窺えることは、まさに漢字の奥深さではないでしょうか。

【大紀元日本より抜粋】

表彰

米山功労者
第9回マルチプル
坪井 正康 会員

特別寄付（個人）の累計額が20～90万円に達したとき、米山功労者マルチプルとして感謝状が10万円毎に贈られます。
累計額が10万円毎に「第2～9回米山功労者マルチプル」と呼びます。

ご協力に感謝申し上げます

幹事報告



谷 晴 夫 幹事

田中ガバナー事務所より「10月ロータリーレート」のご案内

10月1日より 1ドル = 102円（9月レートと変わらず）

三条市特別支援教育研究協議会より

「三条市内特別支援学級児童生徒『ウィンターフェスティバル』」のご案内

【日 時】 2016年12月8日（木） 9:30～11:30

【会 場】 三条市総合福祉センター 多目的ホール

※丸山征夫会長 出席予定

理事会報告

「10月定例理事・役員会」2016年10月3日12:00～ 13名出席

議事 1. 例会出席 及び 地区大会等各種会合への出席の著しい低下について

現状 並びに創立以来年間90%超の出席率を堅持してきた先輩諸氏の努力、出席の重要性を会員各位に書面にて伝える。また、新会員オリエンテーションを開催し、メイクアップによる欠席補填の方法を説明、周知に努める。

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～10月3日 21,000円
今年度累計 187,000円～

丸山(征)君 米山記念奨学委員長 田中様、
ようこそ当クラブへ！
本日は例会その他の会議への出席率について理事会で話合いました。

谷 君 米山記念奨学委員長 田中雅史様
本日の卓話ありがとうございます。
よろしくお願いいたします。

渡辺(俊)君 結婚記念日、誕生祝のプレゼントを
ありがとうございます。

野崎君 田中米山記念奨学委員長、本日は
卓話よろしくお願いいたします。

熊倉君 田中さん、ようこそいらっしやいました。
米山委員会ではお世話になりました。

佐藤(秀)君 米山記念奨学委員長 田中様
ご苦労様です。

田代君 田中米山記念奨学委員長、本日は
卓話にお越しいただきありがとうございます。

銅冶君 田中雅史様、
本日の卓話よろしくお願いいたします。

佐藤(嘉)君 4ヶ月ぶりに例会に復帰しました。
抗がん剤の副作用と手術で大変な日々を送っておりました。
本日よりよろしくお祈りします。

鈴木(武)君 地区米山記念奨学委員長をお迎え
して。
佐藤嘉男さん、よく戻って来られました。

馬場(信)君 田中雅史様、三条南の例会に講師
としてお迎えでき喜んでおります。
本日は新潟のトーハン会で東京へ出張中ですので、お会いすることが出来ず、誠に残念です。

大溪君、西巻君、渡邊(久)君、渡邊(光)君
BOXに協力いたします。

星野君 田中雅史様、先週の月岡温泉では
大変お世話になりました。
本日の卓話ご苦労さまです。
BOXご協力ありがとうございました。

卓話

米山月間



「ロータリー米山記念奨学事業」

R | 第2560地区米山記念奨学委員長
田中雅史様 (新潟南RC)

米山奨学事業とは・・・

- ・日本のロータリー**独自の事業**
(日本全国34地区の合同活動)
- ・大学生、大学院生を中心に、
日本で学ぶ**外国人留学生を支援**
- ・**世話クラブ・カウンセラー制度**に
よる心の交流

日本のロータリアンの夢

- ・1946年 米山梅吉氏逝去
- ・1949年 日本のロータリーが国際ロータリーへ復帰
- ・1952年 東京RC(古沢文作会長)が事業構想。“**平和日本**”を世界へ(日本の友人を増やし、平和を实践する人材を育てる)

国際理解と親善への近道 **米山基金**

- ・1957年 全国組織へ
- ・1967年 財団法人設立



ロータリー米山記念奨学事業とは、日本のロータリーが作った独自の事業で、34地区、全地区の合同プロジェクトです。1952年に事業が始まって以来、一貫して、日本で学ぶ外国人留学生を支援しています。

「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」というのは、この事業をおこなうために、日本のロータリーが協同して運営する奨学財団で、財源はすべてみなさんからのご寄付で成り立っています。

この奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。銀行振込が多い他の奨学金とは違って、米山奨学生にはロータリー活動に共に参加してもらい、交流することを大切にしています。

世話クラブ・カウンセラーになったロータリアンからは、「一度カウンセラーをすると、やみつきになる」「いったんロータリーを退会したが、また米山に関わりたくて再入会した」「目に見える国際奉仕の最前線。これほど面白いチャンスはめったにない」といった声が寄せられています。

米山梅吉翁(上)と、
米山基金の構想を発表した古沢文作氏(下)
米山梅吉氏(1868-1946)
古沢文作氏(1881-1955) 1928年に大連宣言

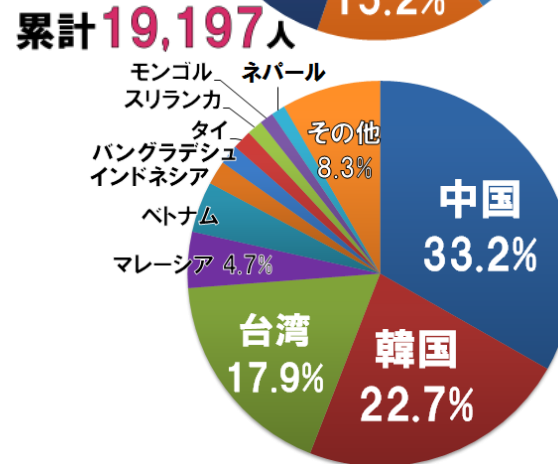
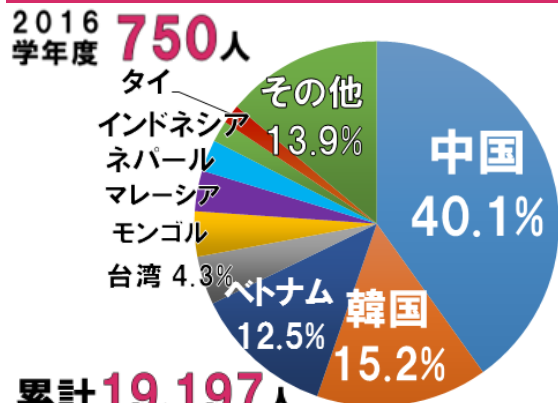


終戦翌年の1946年、“日本のロータリーの父”米山梅吉氏が亡くなりました。3年後の1949年、戦争のため解散を余儀なくされた日本のロータリーが、国際ロータリーへ復帰します。戦後、落ち着きを取り戻すにつれ、梅吉氏の功績を永遠に偲ぶことができるような、何か有益な事業をやろうではないかという声が大きくなってきました。当時の日本はまだ食糧事情もはかばかしくなく、会員たちは「クラブへ行けばお茶を入れてもらえる」と、弁当を持参し、ストーブを囲みながら熱心に議論をしていたそうです。（『ロータリー米山記念奨学会25年史』より）

そして1952年、東京RCの古沢丈作会長が「米山基金」の構想を発表しました。これは、アジアから優秀な学生を招いて学費を援助し、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために“平和日本”を肌で感じてもらいたい、というものでした。

こうして、東京RCが始めた「米山基金」は、わずか5年で、日本の全ロータリークラブの共同事業として継承され、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。

国内最大級の事業規模



当地区の米山奨学生

2016学年度 **21人**

〔国・地域〕 中国・ベトナム・モンゴル・メキシコ・韓国・インド・エリトリア・カンボジア

こうして米山奨学金は、今では日本で民間最大の国際奨学事業となりました。

2016学年度の奨学生は750人、2016年7月現在の累計で、世界124の国と地域から19,197人を支援しています。奨学生の国・地域別の割合はグラフのとおりです。2016学年度は、中国が40.1%、つづいて韓国が15.2%、ベトナムが12.5%となっています。ベトナム・モンゴル・ネパールからの留学生が以前に比べて急増しています。累計では、中国が33.2%、韓国が22.7%、台湾が17.9%の順となっています。

当地区では今年度、21人の奨学生を受け入れています。国・地域別には、中国・ベトナム・モンゴル・メキシコ・韓国・インド・エリトリア・カンボジアとなっています。

奨学生はどのように選ばれていますか？

指定校推薦

うちの大学はこの学生を推薦します

- 地区が指定校を選ぶ
- 指定校から候補者が推薦される
- 応募書類チェック
- 被推薦者を地区が面接・選考

選ぶ基準は？

- ✕ お金に困っている学生
- ✕ 珍しい国籍
- ✕ 日本語が堪能
- ✕ 勉強ひとすじ成績優秀

全地区共通の選考基準（+地区裁量）で公平に選考しています

まず、地区が「指定校」を選びます。わが地区では指定校に対して、ロータリー活動に関心を示して積極的に協力する留学生を推薦してほしい、国籍が偏らないように推薦してほしい、など要望を出しています。

指定校の中で学内選考が行われ、10月の締切に合わせて米山奨学生の候補者が推薦されてきます。推薦された学生を地区が面接し、最終的な合格者を決めています。合格の倍率は、全国平均で約2~3倍です。かつて、ロータリークラブ推薦で奨学生を選んでいた時代もありましたが、公平性が保たれなくなったなどの理由により、1998年に廃止されました。現在は一部のプログラムを除いて、指定校から推薦された留学生を、地区の米山選考委員会が面接選考しています。

奨学生を選ぶ基準ですが、米山奨学金は、経済的に困っているから支援するものではありません。また、国籍で判断もしていません。日本語が上手なだけでも、成績が優秀なだけでも、合格できません。

米山奨学事業の使命は、将来、日本と母国との懸け橋となる優秀な人材を育成することです。その資質がある留学生を、全国共通の評価項目にしたがって、公平に選考しています。

詳しい評価項目や点数配分は公表できませんが、「学業」・「異文化理解への柔軟性」・「コミュニケーション能力」などを総合的に判断し、公平に選考しています。

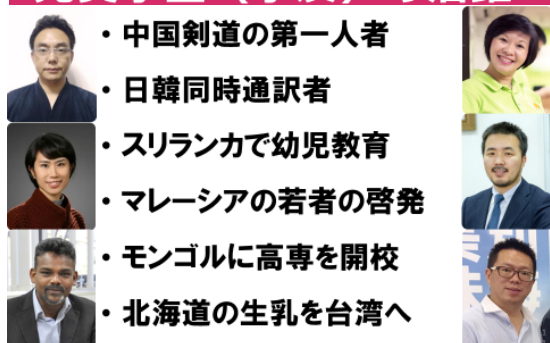
参考：Q なぜお金に困ってる留学生を選ばないのか？

A 米山奨学事業が使命とする人材育成に、経済状況は関わりがないからです。応募書類には、経済状況や家族構成を記入する欄がありますが、選考の際には評価しません。たとえ親が裕福であっても、留学生活は経済的に自立するためアルバイトを掛け持ちする学生がほとんどです。高い教育を受け、将来母国などで影響力のある人物となる可能性のある人物を重視します。貧しそうに見せかけたり、収入を隠して応募するなど、実際の経済状況を把握することは現実として大変難しいということもあります。

どんな成果がでていますか？

元奨学生（学友）の活躍

- 中国剣道の第一人者
- 日韓同時通訳者
- スリランカで幼児教育
- マレーシアの若者の啓発
- モンゴルに高専を開校
- 北海道の生乳を台湾へ



どんどん増える学友会



巣立った学友の活躍と、交流によって育まれた絆は、この事業の最大の成果であるといえます。

学友会の活動【海外】



- スリランカ: 2016年6月に設立
- タイ: 植樹活動
- 韓国: 衛星クラブを設立
- ベトナム: 老人福祉施設慰問

奨学期間が終わったあともロータリーとの接点を持ち、学友同士の友情を深める学友会という組織があります。学友会は、日本国内に33、海外には台湾・韓国・中国・タイ・ネパール・モンゴル・スリランカと、7つの学友会があります。

昨年度(2015-16年度)は海外に1つ、国内では第2720地区、第2750地区と2つ設立され、その数はどんどん増えつつあります。

各学友会ではさまざまな活動をしています。一部ですがご紹介します。

学友会の活動【国内】



- 岩手・宮城: 2520: リンゴご祭り
- 神奈川: 2780: 国際交流会
- 大阪: 関西(2660): 盛大な総会
- 広島・山口: 2710: 陶芸体験

[海外]

左上: 海外で7番目となるスリランカ学友会が設立されました。毎月1回、理事会を開いているそうです。

右上: タイ学友会です。家族も一緒に植樹活動や海岸清掃活動など、毎年さまざまな活動をしています。

左下: 韓国では、学友会を母体とする「韓国米山セソウルロータリー衛星クラブ」を設立しました。また、韓国に留学している日本人に奨学金支援もしています。

右下: ベトナムです。まだ正式な学友会ではありませんが、ホームミンでは学友が「超我の奉仕」と背中に書かれたおそろいのシャツを着て、老人福祉施設を訪問するなど、活発に活動しています。

[国内]

左上: 第2520地区(岩手・宮城)では毎年、リンゴ狩りをしたり、震災をきっかけに縁ができた第2620地区(静岡・山梨)学友会との交流をしたりしています。

右上: 第2780地区(神奈川)学友会が毎年行っているもので、奨学生と学友が、母国の料理でロータリアンをもてなしている様子です。

左下: 関西学友会の総会には、毎年他地区からもロータリアンや学友が大勢参加しています。年間のイベントが盛りだくさんで、イベントごとに担当を決めて運営されています。

右下: 第2710地区(広島・山口)学友会で、陶芸の体験を楽しんでいる様子です。

当地区の学友・学友会



〔当地区〕

2006年2月、中越地震・雪害等の被災者に「足湯」と「水餃子」を提供するボランティア活動を実施。
 2008年6月、中越沖地震で被害を受けた柏崎の仮設住宅で親睦交流会。
 2010年6月、日本文化体験ツアー。 2012年6月、企業見学会。

地区米山記念奨学委員会

<年間活動> 奨学生に対して

- 7月 大学担当者向け説明会
- 1月 新規奨学生選考会
- 5月 新規奨学生オリエンテーション
- 9月 奨学生親睦交流会
- 11月 学友会総会
- 3月 奨学生終了式・歓送会

<年間活動> ロータリアンに対して

- 2月 PETS 米山セミナー
- 4月 カウンセラー研修会
- 5月 地区協 米山セミナー
- 9月 クラブ米山委員長セミナー①
- 11月 選考面接官オリエンテーション
- 2月 クラブ米山委員長セミナー②

<奨学生選考について>

- ・面接官オリエンテーション 11月開催
- ・書類選考 事前考査・選考会当日
- ・選考会 個人面接
グループディスカッション
- ・応募学生 例年50~60人



親睦研修旅行



奨学生終了式



新規奨学生選考会
(グループディスカッション)

寄付金はきちんと使われていますか？

寄付について

普通寄付金：日本の全ロータリアンからの定期寄付で、各クラブで決定した金額×会員数分を半期に一度ご送金いただいています。 2015年度平均・・・4,760円

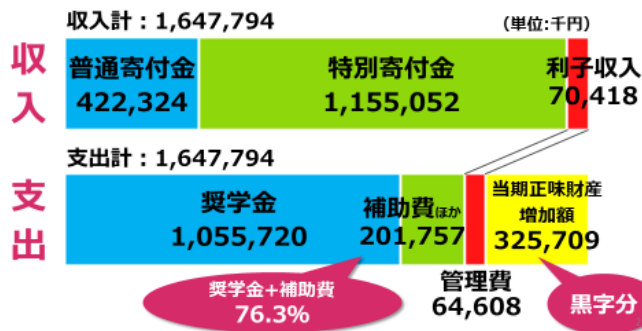
特別寄付金：個人・法人・クラブからの普通寄付金以外の任意寄付。金額に決まりはなく、ロータリアン以外の方からもお受けします。 2015年度平均・・・13,019円

Q：なぜ普通寄付金は必要なのですか？

A：当事業は、毎年いただく寄付金だけで成り立っています。特別寄付金は任意寄付なので、毎年700人以上の奨学生を支援する安定財源として普通寄付金が必要です。また、1967年に財団法人の認可を申請した際、普通寄付金による一定収入が見込めると文部省（当時）を説得し、国内全クラブから普通寄付金の確約をもらうことを条件に設立許可を得た経緯があるためです。

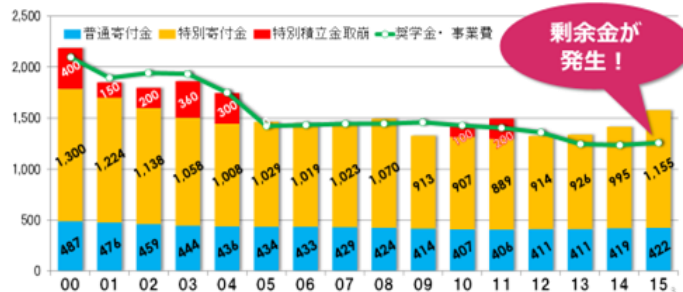
ご寄付は奨学事業に

・昨年度も管理費は利子で賄いました



3年連続で黒字決算

・「奨学事業安定積立資産」とし、速やかに奨学事業に使用します



米山は、みなさまからの毎年の寄付金と、資産の利子収入だけで成り立っています。いただいた寄付は奨学事業だけに使い、管理費は利子収入で賄うようつとめています。

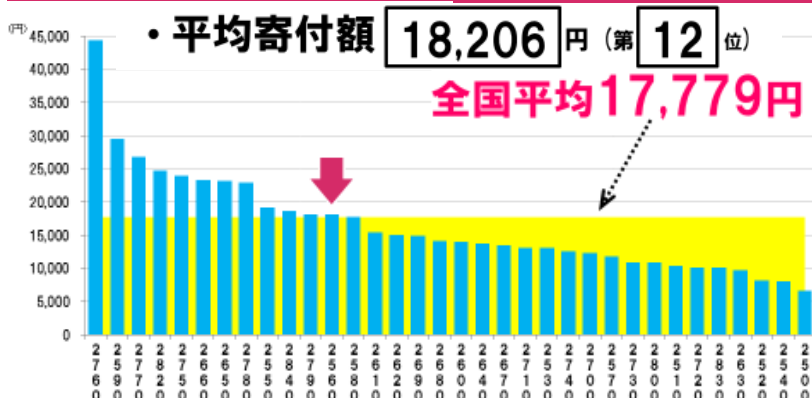
上のグラフは収入です。昨年度の寄付金は15億7,738万円（普通寄付+特別寄付）で、12年ぶりに15億円を超えました。利子を合わせると、収入は全部で16億4,779万円でした。下のグラフは支出です。奨学金、地区や世話クラブへの補助費などの事業費は全部で12億5,748万円、これに管理費を合わせても収入を大きく下回り、2015-16年度は3億円以上の黒字となりました。奨学生採用枠を増やしているものの、寄付金が予想以上に好調でした。

支出の赤い部分、理事会など会合旅費、管理部門の事務局人件費など「管理費」は、“利子収入”で賄うことができます。支出に占める管理費の割合は5%と非常に低く、公益性の高さを表しています。

さて、黒字は一般企業では喜ばしいことですが、公益財団法人の場合には収入が事業費を上回ってはいけなく、つまり、黒字になってはいけなくというきまりがあります。

しかし、ここ3年は連続で黒字、特に2015-16年度は3億円以上の黒字となりました。そこで、2015年度からは「奨学事業安定積立資産」を設け、剰余金を資産として一時的に積み立て、奨学事業に使用することになりました。米山では、寄付金はすべて奨学事業に使用するのが原則ですので、2017学年度の採用枠は780人（前年度+40人）とし、今後も状況に応じて奨学生を増やします。

当地区の寄付実績(1)



当地区の寄付実績(2)

	当地区	全国平均
・普通寄付金	4,481円	4,760円
・特別寄付金	13,726円	13,019円
・特別寄付金の寄付者割合	65.0%	43.2%
・法人寄付の数	92	35

このグラフは、地区別の個人平均寄付額（普通寄付と特別寄付を合わせた金額）です。昨年度の個人平均寄付額の全国平均は17,779円、最も高かったのは、第2760地区（愛知県）の44,399円でした。当地区はピンクの矢印が指している所で、一人平均18,206円、全国で第12位でした。

また、皆さんは、1年間で、どのくらいの方が特別寄付（クラブが送金する普通寄付以外の任意寄付）をしていると思われますか？

昨年度、全ロータリアンのうち特別寄付をした人の割合は全国平均で43.2%でした。ちなみに、第2650地区（福井・滋賀・京都・奈良）では86.5%、なんと9割近くのロータリアンが特別寄付をしています。当地区では65%の方にご協力いただいています。この割合を今後さらに増やすことができるよう、さらなるご協力をお願い申し上げます。法人寄付も、ぜひお願いいたします。全国平均は35法人、当地区は92法人でした。

寄付の税制優遇

- ・所得税、法人税の税制優遇！
- ・税額控除と所得控除
- ・普通寄付金にも適用可
※米山奨学会HPで申請が必要

2,000円以上の寄付でメリット有

課税所得額750万円の方が10万円寄付をすると、**39,200円** 所得税が軽減されます

米山への寄付は、所得税・法人税の税制優遇が受けられます。「税額控除」と「所得控除」、どちらか有利な方を選択することができます。「税額控除」は、寄付額の約40%を、所得税額から直接控除することができるもので、「所得控除」よりも控除額が大きくなることが多いです。

例えば、課税所得が750万円の方が、10万円寄付した場合、税額控除の場合は3万9,200円も所得税が還付されます。

※また、特別寄付金だけでなく、普通寄付金も、申請をすれば領収書が出ます。

すべての領収証を合算して、年間2,000円以上の寄付でメリットがあります。

ご寄付のお願い

- ・寄付が増えれば、より多くの奨学生を採用できます

当地区の目標額(普通+特別)/

20,000円

法人の特別寄付についても、法人税が軽減されます。

同じ寄付をするなら、所得税や法人税が軽くなる米山へ、ぜひ、ご支援をお願いいたします。

田中ガバナーが掲げる当地区の今年度の目標額は、1人当たり20,000円となっております。

地区で奨学生を何人採用できるかは、ほぼ、寄付額の全国比で決まります。来年の当地区の奨学生数は24人です。

1人でも多くの奨学生を採用できるよう、今年度の目標に向けてご協力をお願いします。

日本を、他国を想う気持ち

- ・新潟大火(1955年)
-1,000円の銀行手形「このお金を新潟へ送ってください。私の祈りが伝わればうれしい」
- ・中越地震(2004年)
- ・中越沖地震(2007年)
- ・東日本大震災(2011年)
-奨学生・学友から約760万円
- ・ネパール大地震(2015年)
-ロータリアン・奨学生・学友から1,400万円
- ・熊本大地震(2016年)

日本に大きな災害が起こるたび、世界中の米山学友から手が差し伸べられていることをご存じでしょうか。

その始まりは、1955年の新潟大火(にいがたたいか)にさかのぼります。新潟市中心部が火事で壊滅的な被害を受けたというニュースを知った2人目の奨学生・イーペンさんは、1,000円の銀行手形を東京RCへと託しました。

2011年、東日本大震災のときには、世界の学友・現役の奨学生たちから約760万円が送られました。

今年(2016年)4月、熊本大地震の時には、第2640地区(和歌山・大阪)学友会、中国の上海学友会、タイ学友会から義援金が送られました。第2660地区関西学友会も募金活動をおこない、第2590

地区（神奈川県）学友会はチャリティーコンサートを開きました。ネパールの学友が仲間とともに炊き出しをしたり、マレーシア出身の学友が単身で1週間、泊まり込みでボランティアをしたりもしました。

こうした気持ちは日本に対してだけではありません。

ネパール大地震の時には、日本のロータリアンや奨学生・学友から1400万円が寄せられました。

ネパールに、米山学友という友人がいるからです。米山学友の家族がいるからです。国を再建するためのリーダーとなり、必ずお金を有効活用してくれると確信しているからです。

今、ネパールの米山学友会ではこのお金で基金を作り、被災した学生たち24人を奨学支援しています。



この写真は、第2770地区の奨学生が老人福祉施設を訪問し、入居しているご老人たちと歓談しているときの写真です。

初対面の米山奨学生とご老人が、互いに手を取り合い、涙を流していました。国籍をこえて、世代をこえて、私たちは手を握り合うことができるのです。ご老人はこう言ったそうです。「昔は戦争をしたけれど、これからは仲良くしましょうね」と。奨学生は、これから先、ずっと、この言葉を忘れることはないでしょう。

「世界平和を達成するためには、人と人との交流が最も有効である」――。

国際交流がすぐ平和に結びつくわけではありません。うまく交流できない奨学生もいます。しかし、この地道な、一人一人と絆を

つむいでいく活動を、日本のロータリアンは60年以上、続けてきました。そしてその成果は確実に出ています。日本のロータリアンたちが受け継いできた米山記念奨学事業は、今を生きるわれわれロータリアンの誇りです。先輩たちがつないできた米山の灯を、米山のたすきを、次の世代に伝えていきましょう！

創立50周年に向け、歴代会長を主要目標（テーマ）やエピソードとともにご紹介する新コーナーです。

薬

ひこぼえ

HISTORY OF SANJO SOUTH RC

薬とは、樹木の切り株や根元から生えてくる若芽のこと



井上 功
第十一代会長



1968年6月3日入会
職業分類：車輛工具製造
勤務先：(株)井上製作所
代表取締役

1978～79年度

RI 会長 Clem Renouf クレム レヌーフ（オーストラリア）
「Reach Out・・・手をさし伸べよう・・・」

ガバナー 馬場 金太郎（中条）「あなた自ら」

会長主要目標

我々はロータリアン精神の頭揚に依り、今日の発展と整容を慶ぶとともに、この間、ガバナー並びに各クラブから寄せられた多大の御援助と友情に感謝して、本年から始まる11年目へのステップとしてのぞみたいと思います。

本年度は国際ロータリー、クレム・レヌーフ会長のターゲットは「手をさし伸べよう」善意のロータリーの手を差し伸べよう！であり、第256地区馬場ガバナーは、それに加えて「あなた自から」と申されております。

『手をさし伸べよう あなた自から』

この様な判りやすい、しかも奥深い意味を持ったターゲットを実行するために、しかも11年目というややともすればダレ気味に成るであろうクラブ活動を活発にするためにも、創意と工夫に依りクラブ運営を盛り上げ、全会員が集い、語り、考える中で奉仕の理想とクラブの発展を実現してゆきたいと思っております。

皆さんの多彩なアイデアと機知に富んだ御意見を期待しております。

三條南ロータリークラブ週報

2016.10.3 No.2215 No.10